

学級づくり・人間関係づくり

ハンドブック



平成28年3月

鳥取県教育委員会

はじめに

みなさん、はじめて自分が担任する学級の子どもたちを目の前にした日のことを覚えていますか。何を話せばよいのだろう。自分の言うことを分かってくれるのだろうか。期待と不安で胸がいっぱいだったことでしょう。

教員をしていれば、学校や学級ではさまざまな出来事が起こります。子どもたちと楽しく喜び合うこともあれば、自分の思い通りにいかないことがあって悩んだり、自信を失ったりすることもあるでしょう。時には、自分は教師には向いていないのではないかと考えることもあるかもしれません。みなさんの学校の多くの先輩方も、一度はこのようなことを考えたことでしょう。誰もがこのような経験を重ねて、教師として成長していきます。子どもたちと一緒に過ごした時間は、教師にとって、かけがえのない財産なのです。

本県では、この先10年で教員の年齢構成が大きく変わります。これまで、鳥取県の教育の中心を担っていた年代の退職と同時に、多くの若手教員が教壇に立つこととなります。若手教員の増加等に伴い、これまで以上に教師の学級経営能力を高めていくことが求められています。また、「とっとりの授業改革【10の視点】」の⑩にもあるように、鳥取県の子どもたちが、さらに伸びていくためには、「落ち着いたのびのびと学べる環境づくり（学びの集団・人間関係づくり）」が基盤となります。さらに、いじめを生まない学級づくりやいじめの解消、不登校の未然防止のためにも、学級づくりや人間関係づくりに対する取組が大切です。

そこで、平成27年度に「学級づくり・人間関係づくり」推進事業を実施した6中学校区の取組等を中心にして「学級づくり・人間関係づくり」に関する理論や取組例を具体的に取り上げたハンドブックを作成しました。本書には各中学校区の特徴的な様々な取組を紹介しております。しかし、本書に掲載している実践はほんの一例です。学級づくり・人間関係づくりには、これをしたら必ずうまくいくというような特効薬はありません。まずは、学校で困ったことや思い通りにいかないことがあれば、同じ学校の先輩方に相談してみてください。きっとよいアドバイスをいただけるとおもいます。

これから、鳥取県の学校で子どもたちとかわかっていく中で、思ったとおりにいかないことや困ったことが起こったとき、本書を活用していただき、よりよい学級づくり・人間関係づくりのための参考にしていただければと願います。



第1章 学級担任として大切にしたいこと

子どもを信じる	ー成長の力は無限ー1
(1) 行動の背景を理解する知識を増やす	ーゆとりをもつー1
(2) 子どもと向き合う(自己開示)	ー教師の心を開き、子どもの心を開くー1
(3) 子どもの存在を認める	ー君ってすごいね!ー2
(4) 子どもの成長を認める	ーやったね!できたね!ー2
(5) 子どもの模範となる行動をする	ーけじめをつけるー2

第2章 学級づくり・人間関係づくりの考え方

1	なぜ学級づくり・人間関係づくりが必要なのか3
2	学級集団の欲求段階に応じた指導4
(1)	生理的欲求を満たす指導とは4
(2)	安心の欲求を満たす指導とは4
(3)	交流の欲求を満たす指導とは5
(4)	承認の欲求を満たす指導とは5
(5)	自己実現の欲求を満たす指導とは6

第3章 学級づくり・人間関係づくりの実際

1	学級づくりの進め方7
(1)	学級の1年7
(2)	学級の1日11
2	具体的な実践例13
(1)	特別活動でよりよい学級づくり13
(2)	授業でよりよい学級づくり17
(3)	人間関係づくりのためのアプローチ19
(4)	劇でよりよい人間関係づくり21

先輩のコツに学ぶ! ~困ったときのQ&A~

Q 1	学級開きは大切と聞きましたが、どんなことをするの?23
Q 2	教室環境は、どのようなことに配慮したらよいの?23
Q 3	朝の会にはどのような内容があるとよいの?24
Q 4	帰りの会ではどんなことに気をつけるとよいの?24
Q 5	子どもの心に届くほめ方は?25
Q 6	子どもの効果的なしかり方は?25
Q 7	子どもたちが進んで当番活動をするには?26
Q 8	「個別の教育支援計画」に基づいて 「個別の指導計画」を作成している子どもを引き継いだら?26
Q 9	担任に反抗的な子どもがいたら?27
Q 10	授業中に発表する子が少ないときは?27
Q 11	授業中に私語が多く騒がしい雰囲気ときは?28
Q 12	学校に行き渋る子どもがいたら?28

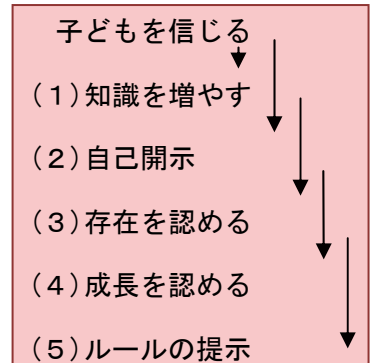
第1章 学級担任として大切にしたいこと

子どもの自立のために社会のルールを教えることは教師の大切な仕事です。ルールを教えるためには、子どもと信頼関係を築くことが必要です。どのように信頼関係を築き、ルールを教えればよいのか考えてみましょう。

信頼関係とルールをつくる道すじ

子どもを信じる —成長の力は無限—

子どもは「よくなりたい、できるようになりたい」という欲求を持っています。まだ見えていない秘められた可能性を伸ばすことが教師の役割です。



(1) 行動の背景を理解する知識を増やす —ゆとりをもつ—

子どもの言葉や行動の背景を理解する知識を持っておくと、気持ちにゆとりをもって対応することができます。特にネガティブな関わり方を見せる子どもに安定して関わるためには、この知識はとても役に立つでしょう。また、集団の実態把握をする際にも有効です。

子どもが見せる表面的な言動のみをとらえて対応すると、子どもが望んでいない関わり方をしてしまい、かえって関係を悪化させてしまいます。一人の子どもの対応のために全体指導のペースが乱れ、学級全体への指導が行き届きにくくなる場合があります。

うまくいった関わり方は続けましょう。うまくいかない場合は、別の方法を探しましょう。

～行動の背景を知る3つの視点～

(1) 生育歴

育てられた人、家族構成等、どのように育てられたかを知ることは、その子が他者に対してどのように関わるか知る手掛かりになります。自分が育てられたように他者に関わろうとする傾向があるからです。厳しい、又は冷たい環境で育てられた子どもへは、優しく、温かく接するとよいでしょう。

(2) 人との関わり方

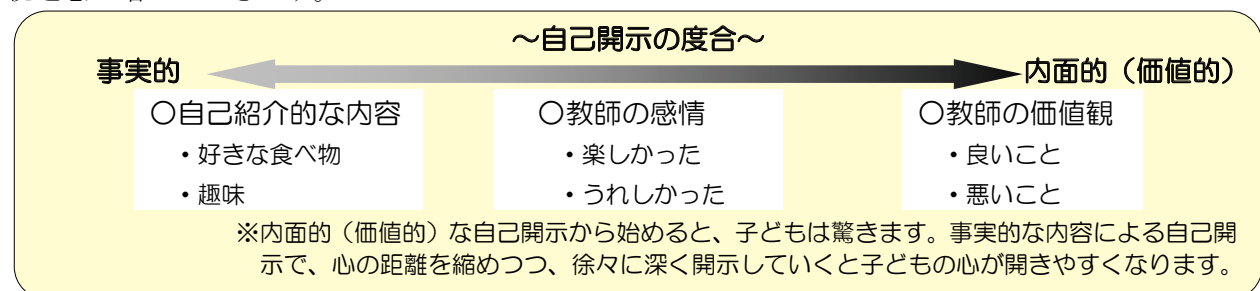
親との安定したつながり（愛着）が持ちにくい子ほど自分を守ろうとして、人に対して攻撃的になるといわれています。教師に反抗的な態度を見せる子どもは、愛情や安心感を欲しがっていると予想されます。いつでも落ち着いて許容的に接するとよいでしょう。

(3) 発達障がい

学習上の困難さ、突飛な行動、状況から外れた行動等、教師から見れば不適切な行動が、実は障がい等に起因していることがあります。子どもの学習面や行動面の困り感に寄り添って指導をするために、特別支援教育主任やスクールカウンセラー、LD等専門員等に助言を求め、特性に応じた指導をしましょう。

(2) 子どもと向き合う（自己開示） —教師の心を開き、子どもの心を開く—

信頼関係を築く第一歩は互いに心を開き合うことです。子どもの心を開くためには、まず、教師自身が子どもに対して自分の心を開くことが必要です。そのためには、教師の考え方や思いを伝えて、「先生はみんなの味方」であることを伝えます。自己開示する情報がより深くなるほど教師への親近感が増していきます。



(3) 子どもの存在を認める ー君ってすごいね！ー

子どもは温かく見守られながら心豊かに成長していくものです。守られるとは「この世に1つしかない大切な存在(命)」として尊重してもらうことではないでしょうか。そのために、性格や特技など子どもの特徴を認めましょう。「先生が自分を認めてくれた」と感じると、子どもたちは教師に信頼感を抱くようになります。

～存在を認める4つのポイント～

- ①**性格**…どんな性格でも、見方を変えてプラスに捉え直して伝えることが性格を認めることになります。
- ②**特技**…足が速い、字がきれい、絵が上手など、どんなに小さなことでも見逃さず認めましょう。
- ③**感情**…どんな感情でも、「〇〇と感じたんだね」と受け止めることが感情を認めることになります。
- ④**思考**…今の考えや思いに至った過程を聞くことが思考を認めることになります。

(4) 子どもの成長を認める ーやったね！できたね！ー

どの子も「自分でしたい、できるようになりたい」と力が伸びていくことを願っています。そのために教師は、子どもが「自分の力が伸びた、伸びる可能性が感じられた」と感じられるように「成果」と「努力」を認め、さらに力を伸ばすための支援を行いましょう。

「できた！」と達成感を感じると、「また自分でやってみよう」という自立への芽生えが見られるようになります。また、教師への信頼感がより強くなります。

～成果と努力を認めるポイント～

- **成果を認める**…どんな小さなことでも、できるようになったことを見逃さず認めます。
- **努力を認める**…失敗しても、できるようになろうとした努力の過程を認めます。

～子どもの力を伸ばす4つのコツ～

- ①**モデリング**…教師や友達の手本を見せること。意欲を高め練習の効果が上がります。
- ②**説明**…留意点を言葉で伝えること。心の言葉に記憶させることで、自分で修正しやすくなります。
※視覚よりも言語の情報が理解しやすい子どももいます。
- ③**サポート**…実態に応じて支援すること。縁の下の力持ちになって、「できた！」へ導きます。
- ④**称賛**…成果や努力をほめ、達成感が感じられるようにすること。次への意欲につながります。

(5) 子どもの模範となる行動をする ーはじめをつけるー

子どもは失敗を経験しながら規則や規範を学びます。その際に手本となるのは身近な大人の言葉や行動です。教師は、他者の心と体を傷つけたり不快にしたりする言葉や行動を見逃さず指摘し、適切な行動を示す手本となる必要があります。そのために私たち教師は日頃から、良いことは良い、悪いことは悪いと判断できる道徳的な価値観を養っておくことが大切です。

～ルールを守らせるには“教師への信頼感”が必要～

(4)までの段階を通して、子どもが教師に対して信頼感を持つようになると、教師の言葉や行動を真似しようとします。大好きな人の言うことは誰でも聞きたいと思う心理です。教師が規則や規範を守る手本となるためには、子どもとの間に信頼関係を築くことがとても大切なのです。

※信頼感がない状態で規則や規範を守らせようとする、「言われないと守らない」「言われると反発する」などの学級が崩れる原因となります。

第2章 学級づくり・人間関係づくりの考え方

1 なぜ学級づくり・人間関係づくりが必要なのか

近年、少子化、過疎化により家の近所に年の近い遊び友だちが少なくなり、子どもたちが群れて遊んでいる姿を見ることが少なくなりました。また、テレビ、ゲーム、パソコンが普及したことで、家族や友だちと一緒に空間にいても相手と顔を向き合わせる機会が少なくなってきました。

このような社会やテクノロジーの変化に伴って、子どもたちは直接に他者と関わりながら集団に所属する機会が少なくなってきました。昨今課題となっている不登校やいじめといった集団への不適応行動は、個あるいは集団で他者と関わる経験の不足が一因となっているケースもあります。

このような現代を生きる子どもたちが**社会に出て自立して生活**できる力を身につけるためには、学校教育の期間に、学級で集団に所属する経験を通してより良い**人間関係**を築く中で、“社会性”を身につけられるように指導・支援することが求められています。

○社会性とは

社会に出て自立した生活を送るために身につけておきたいことは、自分の力を生かして他者のために行動する意欲や態度です。自分の力を発揮して他者のために生かそうとすることを「**自己実現の欲求**」といいます。この欲求を持つことができた子どもは、自分を律し困難なことに立ち向かってでもなりたい自分になるための努力をすることができるようになります。様々な学習や活動を通して、子どもたちが自己実現の欲求を持てるようにすることが学校教育の期間の目標となります。

また、社会生活を円滑に送るには、自分以外の他者と気持ちの良い関係を持つことも必要です。社会性には「他者と良好な関係（**リレーション**）を築く力」「良好な関係を維持するために規範（**ルール**）を守る（つくる）力」も必要であるといえます。

○社会性を育成する教育とは

子どもたちが社会性を身につけるためには、集団の**段階的な発達過程**に基づいた活動を**段階的、計画的**に実施することが必要です。

まず、学級集団の**実態把握**（観察、面接、アンケート）に努めます。次に、集団がどの発達段階にあるのかを判断し、段階に応じた活動を準備することが必要です。

実態把握が不十分で場当たりのになると、規律が乱れ、傷つけ合いが起りやすくなります。子どもたちの負担を増大させ、時には不適応の原因になることもあります。

○学級集団はどのように発達していくのか

A. マズローの「**欲求発達階層説**」によると、集団の段階的発達を分かりやすく説明することができます。これは、自己実現の欲求を抱くまでには、いくつかの欲求が段階的に満たされる必要があるという理論です。

集団の発達とは、一人一人の子どもが集団の中で自分の欲求を発達させていくことで、集団も高まることをいいます。教師が段階的、計画的に欲求を満たしていくよう指導・支援することで学級を運営していきます。

次からはこの理論を活用して、各段階での教師の関わり方、集団が身につけていく社会性、それに応じたQ・Uのプロット図について説明します。



集団の欲求発達の階層

2 学級集団の欲求段階に応じた指導

(1) 生理的欲求を満たす指導とは

生理的欲求とは、食欲、排泄欲等、人間が生命を維持するために必要な基本的な欲求です。おなかが減った、疲れた、喉が乾いたといった形で表現されます。

《欲求を満たす教師の関わり》

- ・水分をとり、トイレに行き、心身ともに休息できる**休憩時間の確保**
- ・ゆっくりとしっかり噛んで味わいながら食事ができる**給食時間の配分**
- ・寒暖、衛生、美化に配慮した**教室環境の整備**

《欲求が満たされないと・・・》

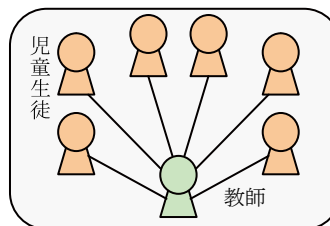
- ・生理的欲求が満たされないとは、休憩がない、トイレにいけない、寒くて凍えるなどの状況です。
- ・生命にかかわる身体的な危機を感じるため、教師に強く抵抗するか怯えとして表現されます。
- ・身体の安全を守るために配慮が必要な欲求です。

(2) 安心の欲求を満たす指導とは

安心の欲求とは、家庭なら親に守ってもらいたい、学校なら学級担任との信頼関係をもちたいという欲求です。「今年の担任の先生は優しい先生がいいな」というつぶやきはこの欲求の現れです。

《欲求を満たす教師の関わり》

- ・子どもの存在を認めるために、小さなことでもよい点やよい能力をほめる。
- ・子どもが努力したことや成長したことを認める。
- ・良いことは良い、悪いことは悪いという教師の価値観を示す。



《集団の規模》

- ・教師と個々の子どもとの**1対1**の関係

《欲求が満たされないと・・・》

- ・安心の欲求が満たされない状況とは、子どもの努力に気付かない、求める子どもの像が高く「まだまだがんばりなさい」という励ましが多く、子どもの不適切な行動を容認してしまうなどの状況です。
- ・教師から認められることが少なかったり不適切な行動が見過ごされたりすると、子どもは教師に失望感を持ちます。それは教師への不信感に変わりやすく、指示や指導がとどきにくくなります。

《この段階における社会性の形成、Q-Uの型 ①》

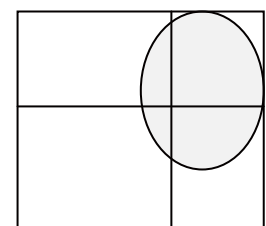
◆社会性の形成

生理的欲求と安心の欲求が満たされると、教師との間に信頼関係（外発的リレーション）が形成され教師の価値観（他律的ルール）を取り込もうとします。

外部からの働きかけ（教師）によって形成されるリレーションとルールです。社会性を学ぶ学齢期に教師という大人の手本を通して“望ましい社会性”を知ることは自立へ向かうための大切な力となります。教師は手本であることを意識し、常に自分の振る舞いを見直しましょう。

◆Q-Uの型

生理的欲求と安心の欲求が満たされ、教師との間にリレーションとルールが形成されると、Q-Uのプロット図は「高いたて型」(図①)になりやすいといわれます。高いたて型のクラスは、授業規律が整って他者の発言を受け入れる雰囲気があるなどの様子が見られます。



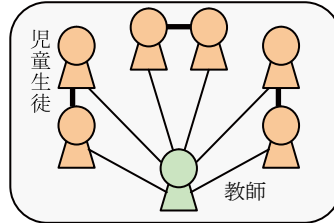
図① 高いたて型

(3) 交流の欲求を満たす指導とは

交流の欲求とは、他者と安心して生活したいという欲求です。周囲の級友と楽しく過ごしたいという形で現れます。4月に仲良しグループをつくらうとするのはこの欲求の現れです。グループが固定化しないよう、多くの級友と交流できる活動を設けましょう。

《欲求を満たす教師の関わり》

- ・楽しい感情を交流できるように、ゲームや遊びの活動を取り入れる。
- ・互いに知り合えるように個人についての情報を交換する活動（自己紹介）を増やす。
- ・ペア活動を基本とし、ローテーションで多くのペア経験ができるようにする。



《集団の規模》

- ・教師と子どもの信頼関係を軸として、**2人組**のペア活動が中心

《欲求が満たされないと・・・》

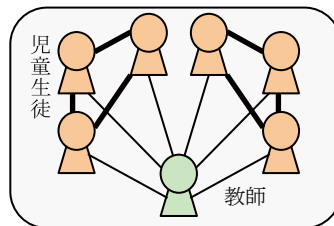
- ・特定の親しい友人以外としか関わろうとせず、グループ化が進みます。
- ・他者への警戒心がなくならないので攻撃的になり、いさかいやトラブルの原因が増えます。
- ・気の弱い子は、発表の時に周囲をうかがい、声が小さくなります。

(4) 承認の欲求を満たす指導とは

承認の欲求は、集団内で自分が必要とされる存在かどうか確認したい欲求です。周囲の級友から認められたい形で現れます。自分に注目を集めたい言動が見られる時は、この欲求が満たされていないサインと捉えることができます。

《欲求を満たす教師の関わり》

- ・性格や得意なことなど子どもの特徴を互いに認め合う活動を行う。
- ・学級集団の役割（係・当番）を遂行したことを互いに感謝し合う活動を行う。
- ・認め合いは日々の活動を一緒に行い、互いの行動をよく見ている生活班等で実施する。



《集団の規模》

- ・生活班を中心とした**小グループ**が中心

《欲求が満たされないと・・・》

- ・個々の能力の差により意欲の差ができ、「やっても意味がない」「どうせできないから…」など意欲の低下がみられます。
- ・学級全体の意欲が低下し、活動の盛り上がりには欠け、教師が指示しないと動かないなど自主性が低下します。

《この段階における社会性の形成、Q-Uの型 ②》

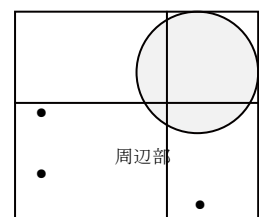
◆社会性の形成

交流の欲求と承認の欲求が満たされると、子ども同士が互いに信頼し合う（内発的リレーション）ようになり、学級に所属することに心地よさを感じるようになります。そして、心地よい学級の和を維持するために自ら意識して集団の規範（自律的ルール）を守るようになります。

子どもが自ら望ましい人間関係を築こうとする態度や資質が形成されつつある段階と捉えることができます。

◆Q-Uの型

交流の欲求と承認の欲求が満たされ、子ども同士の間にもリレーションとルールが形成されると、学級には互いに認め合い支え合う親和的な雰囲気が見られるようになります。プロット図は「右上型」(図②)としてよく表れます。一方で、学級の雰囲気に乗り切れず、周辺部にプロットされている子どもには個別に配慮することが必要です。



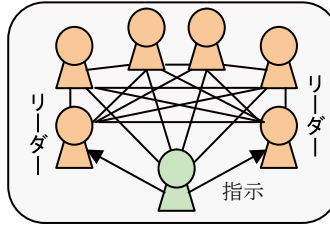
図② 右上型

(5) 自己実現の欲求を満たす指導とは

自己実現の欲求とは、所属している集団内で自分の力を活用したいという欲求です。周囲の級友のために何かしたい、みんなと協力したいという形で現れます。

《欲求を満たす教師の関わり》

- ・行事や日々の生活などこれから向かう活動について集団の目標を共有する。
- ・共通の目標を達成するため、各自役割を実行し、その結果、目標が達成できたと感じさせる。
- ・子どもたちが役割を実行するための時間、場所、物品を準備するにとどめ、最小限に関わる。



《集団の規模》

- ・行事のための特別なグループや学級

《欲求が満たされないと・・・》

- ・いつまでも教師の指示や指導に頼り、自分たちで解決しようとする自治への意欲をもちにくくなります。
⇒順位が付く行事などは結果が思わしくなくても、取組の過程で各自が役割を果たしたことを評価し達成感が感じられるようにします。
- ⇒また、結果を良くするためにはどうすればよいか、考えるきっかけとして子どもたちに投げかけましょう。

第2章

《この段階における社会性の形成、Q-Uの型 ③》

◆社会性の形成

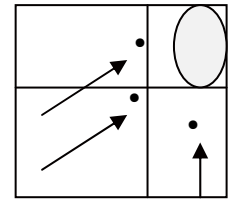
自己実現の欲求を持つようになると、「みんなのために何かしたい」という意欲や態度、困難なことがあっても目標を達成するために努力して工夫しようとする問題解決の力が養われます。

また、努力や工夫の結果、目標が達成されて「できた」という満足感を味わうと、自分たちで自分たちの問題を解決したいという「自治」への欲求が芽生えてきます。

◆Q-Uの型

子どもたちが「やった」「できた」と感じ、自己実現の欲求が満たされると、プロット図における集団のまとまりがさらに高まります(図③)。

周辺部にプロットされた子どもも、集団の認め支え合う雰囲気に着きつけられて、居心地の良さを感じるようになります。プロット図では右上方向に移動してきます。



図③ 一体感が高まった右上型

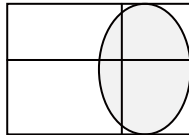
「たて型」…管理型学級

ルール(高い) リレーション(やや低い)

- ・希薄な人間関係
- ・しらっとした活気の無い学級
- ・授業や学級生活全般に対する意欲に差がある

<対応のポイント>

- ・多様なとらえ方を提示し、認め合う場を作る
- ・すべての子どもが認められる場の設定



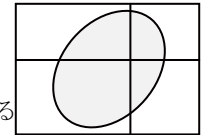
「ななめ型」…荒れ始め型学級

ルール(やや低い) リレーション(やや低い)

- ・規則違反、悪ふざけやいじめが起こりやすい
- ・教師への消極的な反発
- ・声が大きな子の言いなりになる

<対応のポイント>

- ・個々に合った学習指導と取組を認める
- ・学年団等の組織的な対応が必要



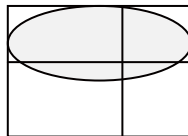
「よこ型」…なれあい型学級

ルール(やや低い) リレーション(高い)

- ・自由でのびのびした雰囲気
- ・授業中の私語が多い
- ・子ども同士のトラブルが多い
- ・係活動ができない

<対応のポイント>

- ・ルールや役割を全体で確実に確認
- ・ほめてルールの定着を促進



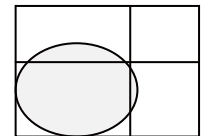
「不満型」…崩壊型学級

ルール(低い) リレーション(低い)

- ・授業が成立しない
- ・教師の指示に露骨に反抗
- ・ターゲットを決めて攻撃する方法で、自分を守る

<対応のポイント>

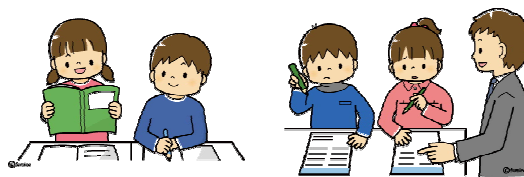
- ・組織で統一した取組
- ・保護者会を開いて説明



参考 「学級づくりのための Q-U入門」 河村茂雄著(2006) 図書文化社

第3章 学級づくり・人間関係づくりの実際

1 学級づくりの進め方



(1) 学級の1年

学級担任は1年間を見通して、学級における様々な教育活動を、子ども一人一人の成長につなげていきます。学級経営においては、一人一人が尊重され、安心・安全で楽しい場所である学級を基盤とし、子どもたちが関わり合いながら、互いに高め合える集団づくりに努めます。子どもたちの持っている力を最大限に引き出し、生かし、さらに高めていけるよう、日常生活や授業、学校行事等を通して、学級づくりを進めていきましょう。

(例)

4月	進級 入学式 交通安全教室
5月	遠足 運動会 ※連休明け
6月	プール開き なわとび大会
7月	七夕集会 1学期終業式 夏休み
8・9月	※夏休み明け 2学期始業式 防災訓練
10月	修学旅行 宿泊学習
11月	学習発表会 文化祭 ※大きな行事の後 読書集会
12月	2学期終業式
1月	3学期始業式
2月	校外学習 体験入学
3月	6年生を送る会 卒業式 修了式

※は、児童生徒が落ち着かなくなりやすい時期です。

① 1学期の学級経営スタート ※高草中学校区の取組参照

新しい学年に進級し、緊張しながらも希望を持っている子どもたち。この気持ちを大切にして、1年後にどのような姿をめざすのか、子どもたちと共有しましょう。また、子どもたちと教師の好ましい人間関係を築く大事な時期です。子どもたち一人一人を認める声かけをして、積極的に関わりましょう。



② 学級目標の共有

学級目標は、学校がめざす児童生徒の姿をもとに、保護者や地域、子どもたちの願いを含め、担任の意図的な指導のもとで作ります。「知徳体」のそれぞれを含む目標にしましょう。また、学級目標を受けて、子どもが自分たちで目標を定め、反省と改善を繰り返しながら、集団や個人をよりよく成長させていくことが大切です。よりよい学級となるよう話し合い、各自が自分の目標を決めて前向きに取り組めるようにしていきましょう。

③ 学校行事を生かす

学校行事には、ねらいが設定されています。育てたい子どもの姿を明確に持ち、その実現に向けて、全教職員が共通理解を図って取り組みます。学級では、ねらいを子どもと共有し、その達成に向けて学級全体や個々に目標を持たせます。教師は、行事を実施するまでの過程で、子どもの行動を見取り、評価しながら望ましい姿に近づけます。途中でうまくいかなかったときは、互いの思いを理解したり、ともに協力したりすることで、学級が成長していきます。行事を実施した後は、成長した姿を子どもたちとともに確認し、今後につながる目標をつくり出し、次の行事や学校生活に継続させましょう。



④ 2学期の学級経営スタート ※高草中学校区の取組参照

学級としての一体感が薄れ、1学期にできていた人間関係に変化が生じている可能性があります。また、新たな不登校児童生徒が生まれやすい時期といわれています。一人一人の子どもをよく観察し、こまめに声をかけていきましょう。改めて学級のルールを確認するとともに、2学期の大まかな予定を把握させ、子どもたちが見通しをもって意欲的に学校生活が始められるようにしましょう。

⑤学級経営の定期的な振り返り

子どもの実態をもとに、自分自身の学級について定期的に振り返りましょう。子ども一人一人が安心して過ごせる学級となるように、必要な手立てを考えて改善していきましょう。

⑥1年間の振り返り

1年間の子どもの成長を具体的に振り返り、子どもたちが自己の成長を確認する機会を持ちましょう。新しい学年へ、希望や期待を持って進級できるようにしましょう。

学級経営チェックリスト

【教師の児童生徒理解】

- 児童生徒の好きなことや興味・関心のあることを把握している
- 児童生徒の得意なことと苦手なことの両面を把握している
- 児童生徒の気になる言動の要因・背景を見つけようとしている
- 日頃から児童生徒の気持ちを聞いている
- 取組の過程における児童生徒の変容や努力を評価している
- 学級以外での活動の情報収集に努めている
- 児童生徒が学級内で認められる場を設定している

【認め合い支え合う集団づくり】

- 学級の諸問題を解決するための話し合い活動を設定している
- 一人一人が役割を果たせる活動の場を設定している
- 学級や学年のルールづくりを工夫している
- 人間関係づくりを学ぶ機会や場を設定している

【授業づくり】

- 見通しや意欲がもてるよう授業の構成をしている
- 指示や発問等、具体的な話し方を工夫している
- 視覚支援を取り入れた授業をしている
- 板書計画を立て、見やすい板書に心がけている
- 机間指導の際に、児童生徒一人一人に対して評価を行っている
- 個に応じたワークシート等の教材・教具を準備し、活用している
- 教室環境の整備のチェックを行っている

【教職員との連携】

- 困ったときに校内に相談できる人がいる
- 校内で学校目標（めざす児童生徒の姿）について共通理解がなされている

【保護者との連携】

- 保護者に児童生徒の良いところや伸びてきたことを伝えている

【関係機関との連携】 ※必要な場合

- 関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の教育に生かしている

学級開きスタンダード「はじめの1週間」

鳥取市立高草中学校区

安心

◆ルールづくりに最適な時期

高草中学校区の各小中学校では、「学級開きスタンダード」を作成し、はじめの1週間の「ルール」の指導を全教職員で共通理解し、全学級で実践しています。計画的に統一した指導を行うことで、担任だけでなく、全教職員で指導を行うことができます。

そして、指導したことが日々の生活の中で実行されているかどうかを毎月振り返り、次の指導に生かしています。また、夏休み明けにも、同じように1週間をかけてルールを再確認しています。

※指導内容は次頁参照（大正小学校版スタンダード）



同学年の先生と積極的に話し合い、共通理解した上で、計画的に学級開きを行いましょ。ただし、すべてが計画通りに進むわけではありません。学級全体や子ども一人一人の表情や言動に気を配り、それに応じて「待つ」「言い方や内容を変える」「声をかける」など柔軟に対応しながら指導していくようにしましょ。

◆関係づくりで雰囲気づくり

ルールを指導すると同時に、教師と子ども、子ども同士の関係づくりも、授業の中でも計画的に仕組んでいます。様々なエクササイズを用意し、新たなクラスメイトと温かい雰囲気の中でふれ合えるようにしています。クラスメイトや教師との出会いがプラスに働くと、安心感をもつことができます。また、「学級、学校が楽しい」「この1年間が楽しみ」など前向きな気持ちをもつことができます。それが、学級の温かい雰囲気をつくり、その後の様々な活動への意欲にもつながっていきます。



信じてるからね！

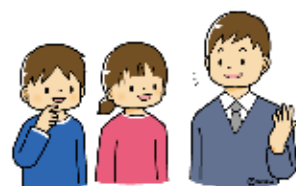


クラスの全員が参加できることが大切です。エクササイズの内容はもちろんですが、教師の演出、子どもたちの気持ちを盛り上げるための話し方も重要です。「やってみたい！」と思わせるための準備をして、温かい雰囲気の中で行いましょ。

	主な行事	ルール（たて糸）	心の通じ合い（横糸）	連絡・配布物
1 日 目	始業式・着任式	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、返事、名前の呼び方 姿勢（写真掲示） 座席・ロッカーの確認 くつの入れ方 傘のかけ方 体育館へ出る時の並び方・歩き方 教科書、ノート配布 大正っ子の筆箱確認 ＜学び方名人＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の名前を誤りなく呼ぶ ＜あなたを待っていますよというサイン＞ 担任自己紹介 ＜教師に親しみを持たせる＞ 教師の方針 笑顔で下校させる 転入生への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だより 教科書配布
2 日 目	入学式	<ul style="list-style-type: none"> 提出物の出し方 日直の仕事確認 朝の会 帰りの会 入学式のルール 入学式の練習 お客様への挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生をあたたかく迎える 楽しい体験でさようなら ＜簡単なジャンケンゲーム等＞ 	
3 日 目	学習開始 給食開始 掃除開始 地区別児童会 集団下校	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書指導 給食当番の決定 ＜当番・準備の指導＞ 掃除の仕方指導 ＜ぞうきんのかけ方＞ 休憩時間指導 ＜5分間休憩、遊び方指導、遊具の 使い方確認、体育館使用＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 知的で楽しい学習を心がける 	<ul style="list-style-type: none"> 大正小学校の約束
4 日 目	発育測定	<ul style="list-style-type: none"> 発育測定の指導 ＜体操服の着替え方＞ 自習の仕方 学習のきまり確立 ＜学び方名人の徹底、持ち物、宿題＞ 係活動 当番活動＜一人一役＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 親しい人間関係を育てる ＜ゲーム・レクリエーションで緊張を解く＞ 学級での下校指導 ＜下校グループ確認＞ 	<ul style="list-style-type: none"> めざそう 学び方名人
5 日 目	交通安全教室	<ul style="list-style-type: none"> 学級目標の話合い 算数開き ＜みんなで分ろう＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いや願いを知ろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 体操服、給食セット、上靴等持ち帰りを気遣う
毎 週		<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日に、学び方名人を活用し、学習のきまり等を振り返る時間を確保 学級・学校の文化にする 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの自主性を尊重し、育てる工夫 具体的にほめて自信をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習・生活のきまり掲示 姿勢写真
そ の 後		<ul style="list-style-type: none"> これまで指導したことをチェックし、徹底する ＜何度も何度も繰り返し指導＞ ルールとマナー 学級目標実現に向けた教師の振り返り 情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 互いを認め合える人間関係づくり 自尊感情を高める 子どものやる気と意欲を育てる 集団活動の楽しさを味わわせる 情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だより

(2) 学級の1日

学級担任は、子どもにとって学校で1番身近な存在です。授業の時間だけでなく、給食時間、掃除時間、休憩時間等、様々な場面で子どもと関わっていきます。子どもにとって、信頼される教師でありたいものです。



子どもが安心して学校生活を送るためには、見通しを持って学校生活を送ることができるようにすることが大切です。1日の予定がはっきりと分かるものを教室に掲示しておきましょう。また、学校は集団生活を営む場なので、きまりを守ることも大切です。必要に応じて、適切な指導を行います。1日1日の積み重ねが1年となっていきます。1日を大切にしていきたいと思います。

11月10日(火)	
教科	学習すること
1 理科	流れる水のはたらき
2 算数	面積
3 スポ	大会(マラソン大会)
4 国語	不思議な世界
5	不思議な森集会
6	
しゅんたいれんら	日音、目
	漢字、外国語、外国語
	食物アレルギー調査会

(例) 小学校の1日の予定

時	教科	連絡
1	英	まとめ
2	家	魚の調理の仕方
3	国	敬語 国文法
4	社	世界の交通・通信網
5	理	実験のまとめの理
6	数	図形の訂正

(例) 中学校の1日の予定

さわやかな1日のはじまりを

安心

◆子ども一人一人の顔を見て

朝一番に会う子どもは、どんな表情をしていますか。うれしそうなお顔、どこことなく元気がない顔、まだ眠そうな顔等、子どもの表情は様々です。

朝、教室に入って、子どもの顔を見ながら、一人一人の調子の良さ悪しを見取りたいものです。

そして、いつもと様子が違う子どもには、朝の会後か休憩時間に「いつもと違って元気がないけれどどうしたの。」と様子を聞いたり、元気づける言葉をかけたりしてみてください。子どもは態度には出さないかもしれませんが、自分のことを心にとめてもらっていることを感じるはず。教師の心のこもったひと声が、その子どもの大きな心の支えにつながります。



朝の会では、教師の話も積極的にしましょう。今日の予定だけでなく、時事問題や先生の趣味の話もすると、児童生徒は喜んで聞くことでしょう。ただし、時間オーバーにならないように！

休憩時間は子どもの友人関係に注目

交流

◆授業中では見ることができない友人関係が見えてきます

休憩時間、担任は連絡帳の返事を書いたり、宿題の丸付けをしたりと大忙しです。また、生徒指導上の問題への対応や学年団で話し合いをする予定が入っているということも考えられます。

いつも忙しいとは思いますが、時間に余裕がある場合は、子どもたちと教室で過ごしたり、いっしょに遊んだりすることもしてみても良いでしょう。日頃見えていなかった友人関係の変化に気づいたり、子どもから悩みの相談を受けたりすることもあります。授業時間とは、また違った子どもたちの姿が見えます。



特に、あまり話すことがない児童生徒を意識してみましよう。案外、いろいろな話をしてくれることもあります。休憩時間に、教師が主役になりすぎないようにしましょう。

ルールやマナーを守って楽しい給食

交流

◆特に年度初めのルールが大切です

給食時間、特に小学校高学年や中学生になると、おなかをすかせている児童生徒も多いです。すると、早く給食を食べたいがために当番の仕事や配膳をいい加減にしてしまうこともあります。中には、自分の好きなように適当に配膳してしまう子もいます。

給食時間は、学校教育の時間です。学級のルールが徹底するまでは、丁寧に教師が指導に入ることが必要です。白衣を着て集合するとき、配膳室に行くとき、配膳するときのルール、様々なルールが必要です。また食べ始めてからも、食事のマナーの指導、おかわりのルール、食器の返し方等、様々なルールが必要です。年度初めや学期初めにしっかりとルールを確認すれば、定着していきます。ルールやマナーを守って、みんなが落ち着いて食事をする時間にすることが大切です。



新学年の始まり、学期の始まり等、大きな節目の時期にルールを徹底しましょう。教師が給食当番と行動をとることも必要です。お互いが気持ちよく食事の時間を迎えましょう。

教師も子どもといっしょになって掃除

交流

◆がんばっている姿を見つけて称賛の声を

毎日使う教室や廊下。いつも整然とした環境にしたいものです。教室や廊下を使うのは児童生徒だけではなく、教師もいっしょになって掃除をしましょう。掃除の時間は、人の気が付かないところを進んで掃除する姿や友達と協力して黙々と掃除をする姿を発見する等、子どもの意外な一面を発見することもあります。教師が子どもたちのがんばりを見つけて、どんどん称賛の声をかけましょう。

掃除の時間は、自分たちの学校を大切にしようとする愛校心の醸成にもつながっていきます。児童会活動や生徒会活動でも、学校の美化活動に対する取組があったら、学校全体が一つになってよいですね。



日頃の教師の机の周りはどうですか？整頓されていますか？子どもに言うだけでなく、まずは教師が手本を示しましょう。

2 具体的な実践例

(1) 特別活動でよりよい学級づくり

特別活動には、学級活動・児童会活動・クラブ活動（小学校）・学校行事が位置づけられています。これらの活動は、子どもの自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤となる望ましい人間関係を築き、いじめや不登校などの問題に対する未然防止の役割を果たすなど、子どもの成長に欠かせない教育活動です。

特別活動の特質を理解し、ねらいを明確にして指導することが、指導の効果を上げるポイントです。

①特別活動の特質

集団活動であること

よりよい生活や人間関係を築くために、目標やその達成の方法や手段などを決め、みんなで役割を分担してその実現を目指す協同的な集団活動です。

自主的な活動であること

自ら楽しく豊かな学級や学校の生活をつくりたいという課題意識をもって、指示待ちではなく、自分たちで問題を見付けたり話し合ったりして解決するなど、「子どもによる、子どものための活動」です。

実践的な活動であること

楽しく豊かな学級や学校の生活づくりのための諸問題を話し合ったり、話合いで決めたことに友達と協力して取り組み、反省を生かしたりするなど具体的に実践する活動です。

②特別活動の充実により、学校が変わる、学級が変わる

特別活動では、児童生徒のよりよい人間関係を築く力と問題解決力の育成をめざします。望ましい人間関係が築かれた学級では、特定の子どもに対して継続的に苦痛を与えるような行為は発生しにくくなります。また、問題解決力が育っている学級では、友達同士のトラブルが発生しても、よりよい解決策を自分たちで見つけようとします。

いじめの未然防止のために

いじめの未然防止のためには、学級全体にいじめを許さない雰囲気を作り出すことが必要です。『生徒指導提要』（文部科学省、平成22年3月）には、「教室全体にいじめを許容しない雰囲気が形成され、傍観者の中からいじめを抑止する『仲裁者』が現れるような学級経営を行うことが望まれます。」と記されています。つまり、いじめを許さない、いじめに負けない学級づくりが必要なのです。

特別活動には、学級の雰囲気を醸成したり、望ましい人間関係を形成したりする機能があります。子どもたち自身が主体的に取り組むことに意義があるのです。

自己有用感を育むために

特別活動では、集団の一員として集団に寄与する活動を通して、「自分自身の持ち味やよいところ」「仲間から必要とされていること」「自分も役に立っていること」を実感し自己有用感が高まります。自己有用感とは、相手に対する自分からの働きかけと、それに対する相手や周りからの評価があって初めて感じる感情なのです。

学力向上のために

特別活動で培われた自主的、実践的な態度や、協力的、支持的風土が、各教科等の学習により影響を与え、学力向上につながります。また、国語科をはじめとする各教科等で培った「話し合う力」が、学級会などの児童・生徒による主体的な話し合い活動の基盤となります。つまり、特別活動と各教科等における指導が適切に行われてこそ、よりよい人間関係づくりがなされ、学力向上につながるのです。なお、学級活動(2)の共通事項「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」では、意欲的、計画的な学習態度の形成に関する学習をし、学習に対する課題をつかみ、自分なりの解決方法を決め実践します。

学級活動(1)の指導の流れは？

学級の諸問題について話し合って解決する活動を通し、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てます。また、違いや多様性を超えて、“合意形成をする言語能力”の育成を図ります。

学級活動(1)とは、取り上げる内容を子どもたちが決め、学級全員が取り組むべき内容を扱う。方法などを話し合い、集団決定したことに基づいてみんなで協力してよりよい学級や学校を築く活動。

議題「どうぞよろしくの会をしよう」(小学校第3学年)を例に

①問題の発見



クラス替えをしたから、みんなのことを知って早く仲良くなれるような集会がしたいな。

なるほど。議題ポストに提案してごらん。



議題の提案につながる児童のつぶやきなどを見付け、助言することで、問題を発見する視点を伝えます。

- 議題ポストへの提案から。
- 朝の会や帰りの会で話題になったものから。
- 学級日誌などに書かれていることから。
- 係活動や当番活動の感想から。など

②議題の選定(計画委員会)



そう考えると、今回は「どうぞよろしくの会」がいいね。

学級の全員に関係があって、今取り上げるべき議題はどれでしょう。



提案された議題の中から、取り上げる議題を選びます。
選ばれなかった議題の取扱いについて提案者に伝えます。

【児童に任せることのできない内容に注意します。】

例 個人情報やプライバシー、教育課程や施設・設備に関わること、金銭徴収に関わること など

③活動計画の作成(計画委員会)



学級会では、どんな遊びをするか、どんな係が必要か、などについて話し合います。

1時間かけて全員で話し合う必要があるのは、どんなことかな。



【計画委員会で話し合うこと】

- 提案者の思いを生かして提案理由を明確化する。
- 「学級会で話し合うこと」(話し合いの柱)を決定する。
- 役割分担をする。 など

④本時の活動

集団討議による集団目標の集団決定(共同の問題をみんなで相談、みんなで決める。)

議題 どうぞよろしくの会をしよう

提案理由・話し合いのめあて

話し合いの柱① 何のゲームをするか
話し合いの柱② どんな工夫ができるか
話し合いの柱③ どんな係が必要か

出し合う → くらべ合う → まとめる(決める)

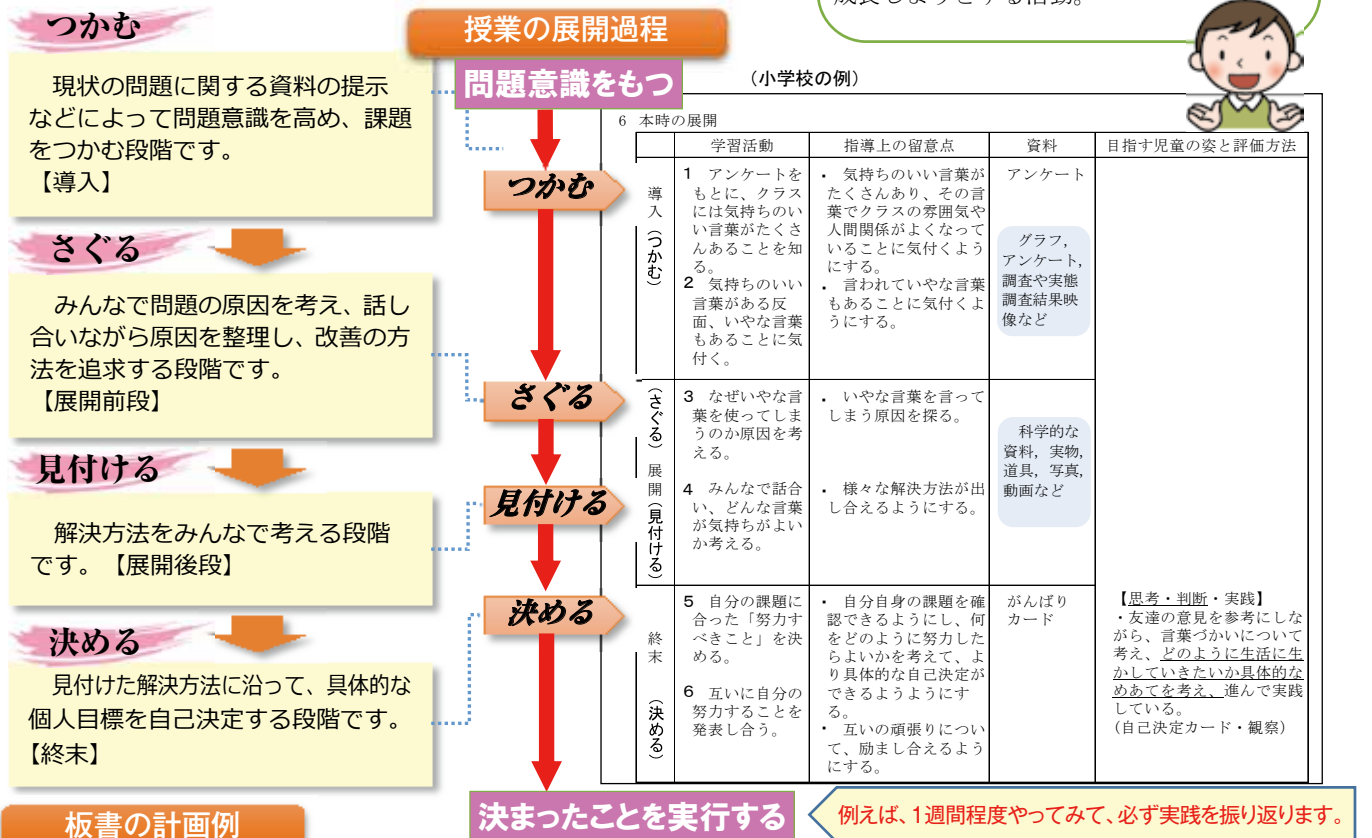
話し合いの振り返り
決まったこと確かめ
教師の話

学級会では、教師は児童の話し合いを見守ることが基本になります。適切なタイミングで指導・助言を行いながら、児童が自分たちでよりよい集団決定ができるようにします。

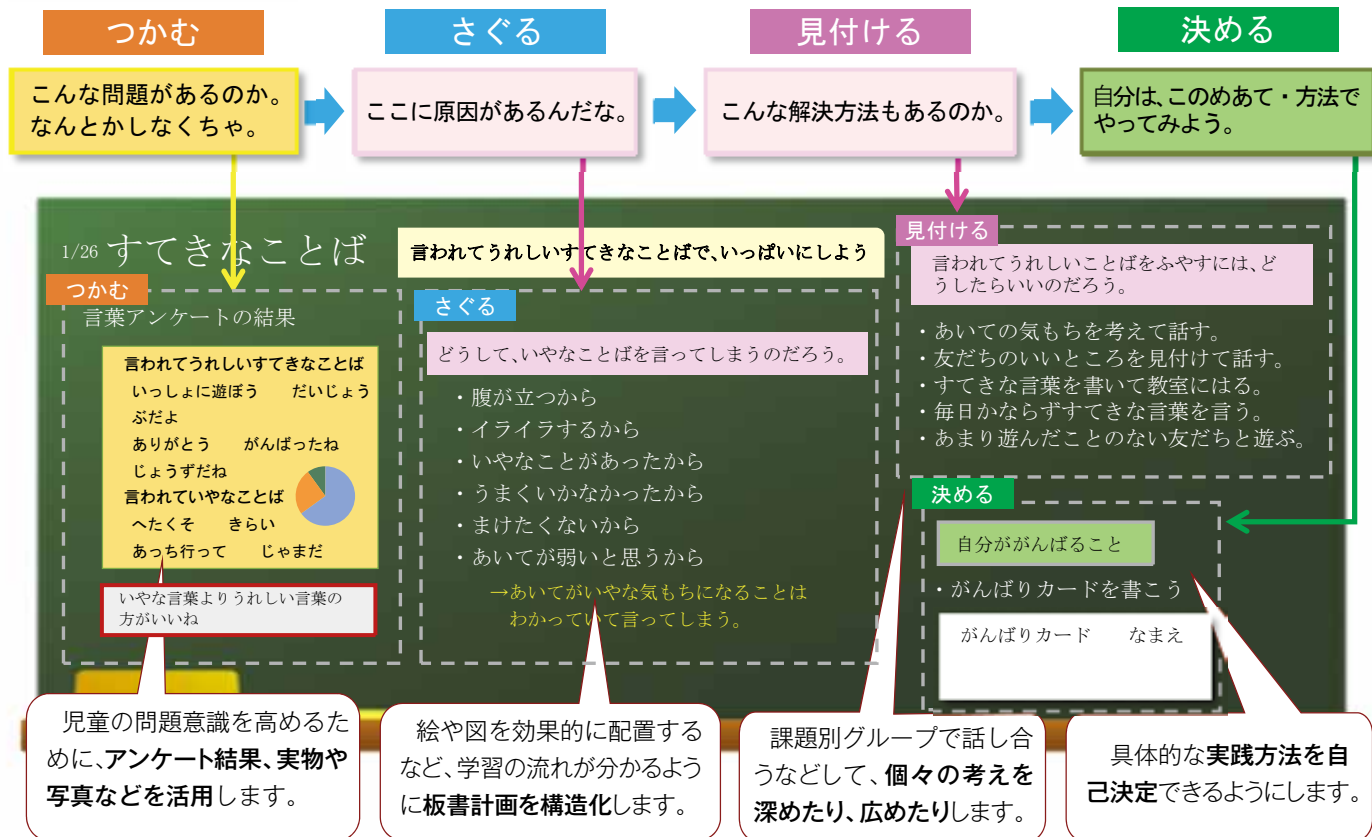
学級活動(2)の指導の流れは？

[つかむ]→[さぐる]→[見付ける]→[決める]→[実行する]は、学級活動(2)の活動の流れの基本形です。授業のつくり方は内容や児童の実態により、板書計画を工夫します。

学級活動(2)とは、取り上げる内容を教師が決め、学級に共通し、個々が努力して解決すべき内容を扱う。解決方法などについて話し合い、自己決定したことに基いて一人一人が強い意志で努力し、よりよい自分へと成長しようとする活動。



板書の計画例



◆全校児童の前で得意なことを披露

自分の特技を披露しようという有志児童が出演し、予選を経て、全校での本選が行われます。内容は、ダンス、ピアノ、けん玉、なわとび、お笑い・・・と様々です。自己表現したことを認められる経験は、自尊感情を高めます。このような活動は、学級活動（1）における集会活動で行うことも可能です。



みんなが笑ってくれた！



みんなの前で踊ると気持ちいいな。

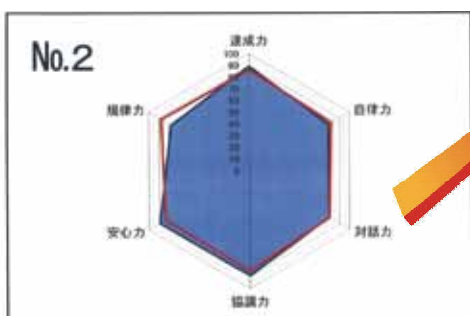


自己を表現し、友だちに認められる経験が自信につながります。また、互いに認め合おうとする態度にもつながっていきます。全員がそんな経験ができるような場を計画的に設定していきましょう。

◆自己評価による振り返り

「学級力アンケート」の結果をレーダーチャート図に表し、生徒が学級の状況を学級目標に照らし合わせながら客観的に振り返り、話し合います。そして、「学級のよさをさらに伸ばしていくために」「課題を改善するために」という視点で、よりよい学級にするための取組を話し合い、集団決定します。

決定したことは、班長会や終学活等で振り返りながら実践していきます。そして、生徒自身がその成果を次のアンケートで確認し、新たな取組を話し合うというPDCAサイクルを繰り返します。このサイクルを生徒が主体的に進められるように指導することで、自治的集団を育てています。



こんな取組をしてみてもうどうでしょう？

私たちの学級は、今どんな状態？



子どもたちが学級づくりの主体者となることで、学級づくり、学校づくりに参画する態度が育ちます。自分たちで話し合いを進め、課題を発見したり取組を考えたりできるようになるためには、はじめは学級活動の時間にいていかに指導することが大切です。慣れてきたら、徐々に子どもたちに任せ、教師はサポート役にまわしましょう。そして、実践の中で、成果を実感したり、次の課題を見付けたりできるような関わり方をしていきましょう。

(2) 授業でよりよい学級づくり

子ども達が学校生活の中で共に過ごす時間の大半は、授業時間です。集団で学ぶ授業の特性を生かして、互いに認め合い協力し合うことの大切さを感じさせることができます。

「学び合う」「高め合う」ことができるよりよい学級づくりをめざし、次の点について留意していきましょう。

◆安心して話ができる雰囲気をつくる

「授業中に自分の考えを発表したら、間違っていて友だちに笑われた。」このような経験をすると、その子は、間違えることをおそれ、発表できなくなってしまいます。

子どもが安心して話ができる雰囲気を作るために、自分の考えを発表したことのよさを認めて、温かい言葉をかけましょう。

また、「誰でも間違えることがあること」や「失敗や思考錯誤から学びが深まること」を子どもに伝えていきましょう。

〇〇さんの発表のおかげで、〇〇について、みんなで詳しく考えることができたね。ありがとう。



◆一人一人が活躍できる場をつくる

一人一人が大切にされ、それぞれが活躍できるような授業を行うことで、子ども達は学習に自信を持って取り組むことができるようになり、互いに認め合うようになります。そのために、子ども達の学習状況や特性を理解して、どの場面でどの子が活躍できそうか考えることが大切です。

授業中に、個に応じた支援を行ったり、ほめたりすることで、一人一人の考えを出し合う場を設定しましょう。自分の考えを伝えるのに苦手意識のある子どもには、個で考える時間を確保し、ノートやホワイトボードで可視化することも有効です。また、事前に話し合う内容を伝えておいたり、教師と一緒に考える時間を作ったりして、「自分の考えを伝えることができた」という成功経験をつみあげ、子どもに自信をつけていきましょう。

もう少し考える時間があつたらいいのに…。



◆子どもの主体的に学び合う授業をつくる

子ども達が主体的・協働的に学ぶ授業をめざして、次の点をチェックしてみましょう。

【教師編】

- 課題や発問は、子どもが学び合いたくなるものになっていますか。
- 話し合い活動の場面で、教師が助言や解説をしすぎていませんか。
- 「教師対子ども」の一对一のやりとりだけで、授業が進んでいませんか。

【子ども編】

- 子どもが「つなぐ言葉」「広げる言葉」を積極的に使っていますか。
- 子ども自身が、自分たちの学び姿を振り返っていますか。

「あいづち」「つなぐ言葉」「広げる言葉」を使って

友達の話を「うんうん」とあいづちをうちながら肯定的に聞いたり、自分の話を聞いてもらったりすることで、子ども同士の間に安心して話せる雰囲気が生まれます。また、自分の発表したことが「つなぐ言葉」「広げる言葉」を使って、クラスで共有されることで、子どもの自信や喜びにつながり、話し合うことのよさを感じることができます。

「つなぐ言葉」「広げる言葉」

というとは？	似たようなことではない？
ほかには？	もっと詳しく教えて。
そのわけは？	エピソードを教えてください。
どうして？	
たとえば？	
具体的には？	

学び合いのある授業をめざして 倉吉市立久米中学校

交流

◆話し合い活動の活性化をめざして

生徒一人に1枚ずつ準備したホワイトボード（A4サイズ、裏面マグネット付き）を活用した授業づくりを進めています。

まず、各自がボードに自分の考えの要点を書いて思考を整理・可視化します。そして、ボードを見せながらペアやグループで説明し合うことで思考の共有化を図ります。互いの考えの共通点や相違点が明確になり、新たな考えを書き加えることで話し合いが深まると同時に、試行錯誤の様子を指導者も把握できます。クラス全体で共有化する際も、全員の意見を黒板に掲示することができます。



久米中学校区では、各教科、特別活動、道徳など、話し合い活動の活性化をめざし、小中連携を軸に効果的な活用を研究しているところです。

◆「学び合い」のよさを感じて、高め合う学級へ

久米中学校では、給食時間に学習委員長が「前日の学びの振り返り（宿題達成率、授業評価）」を放送します。学習態度のABC評価に加えて、昨年度よりS評価を取り入れました。Sとは、生徒が主体的に話し合いに参加し学びの深まりが見られた時につく評価です。学びの質についても生徒自身が意識し、高め合う学級集団づくりに向けて努力しています。



「ホワイトボード」や「ミニ黒板」は、思考を可視化するのに有効なツールですが、それを使うこと自体が目的にならないように注意しましょう。中学校では、学びの質について生徒自身が評価することで成果を上げています。

生徒同士をつなぐ授業づくり 米子市立美保中学校

交流

◆生徒同士をつなぐ課題の設定

授業で付きたい力や目指す生徒の姿をもとに、生徒同士の「学び合い」のある活動を意図した「課題」づくりをしています。各教科で、やる気を喚起したり、探究の喜びを感じたり、関わり合う必然性を持たせたりすることができる「学ぶ値打ちのある課題」の設定を工夫しています。



- (例) 英語科 ペアによるオリジナル英会話づくり
- 国語科 生徒同士による作文の添削指導
- 理科 既習事項を説明「1円玉がアルミニウムであることを説明しよう」

◆言語活動の充実

授業だけでなく、学校行事や生徒会活動でも学び合い、高め合う集団づくりを目指しています。

例えば、体育祭では、縦割りのチームで話し合う場面を設定しています。



子どもが学び合いたくなる課題や発問を考えましょう。様々な場面でねらいを達成するのに有効な言語活動を取り入れていきましょう。

(3) 人間関係づくりのためのアプローチ

～ソーシャルスキルトレーニング (SST)～

① SSTが求められる背景

核家族化、デジタルメディアの普及、地域交流の減少などにより、子どもたちが身近な大人と接する機会が少なくなり、地域、社会の規範や人と人との関わり方のモデルを大人から見習う機会も減ってきています。不登校やいじめといった問題も、望ましい対人関係のモデルに接する機会が減ったことも一因と考えられます。学校教育の中に意図的、計画的に対人関係の体験学習を取り入れることが求められています。

② SSTとは？…対人関係を営むための知識と技術を体験的に学習すること

種類	内容
相手を気づかうスキル (配慮のスキル)	謝る(ごめんなさい)、許す(いいよ、気にしないで)、手伝う(手伝おうか?)、話を聞く(目を見てうなずく)、体を気づかう(大丈夫?)、許可を求める(〇〇していいですか)、譲る(どうぞ)、同意する(そうですね)
相手にかかわるスキル (かかわりのスキル)	話しかける(話しかけていい?)、感謝する(ありがとう)、質問する(分からないことを聞いていい?)、遊びに誘う(一緒に遊ばない?) 気持ちを伝える(〇〇と思う、理由は～)、借りる(困っているから、〇〇を貸して)、意見を求める(〇〇さんはどう思う?)

③ SST活動を作る流れ

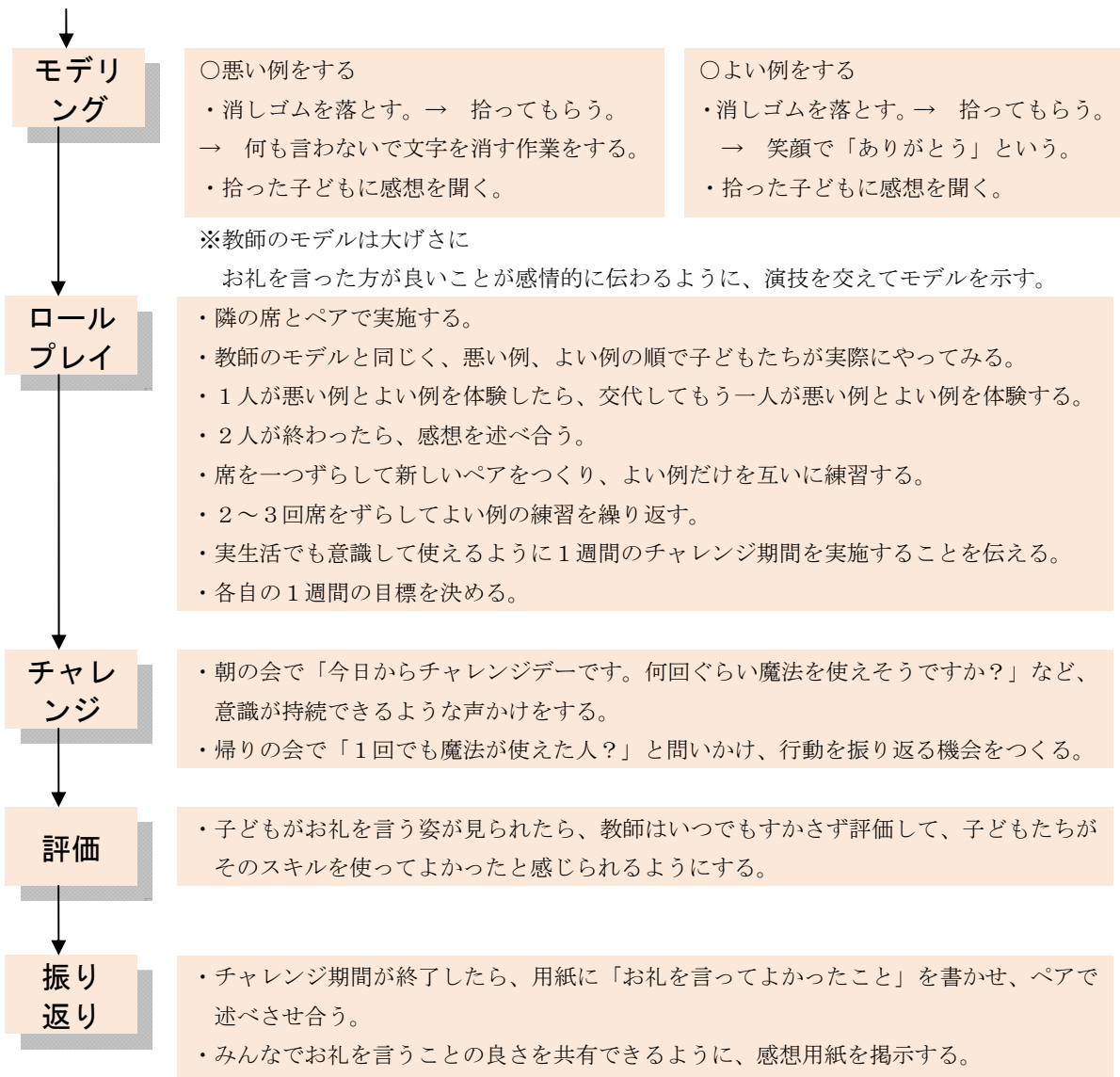
流れ	内容
事前	スキルの特定 普段の生活の様子を観察し、課題となるスキルを見つける。
授業	説明 心地よい生活を送ることを目的とし、スキルを学ぶ意義を伝える。
	モデリング そのスキルを使った場合と使わなかった場合を実演し、情動的に必要性を実感させる。
	ロールプレイ 仮想場面を設定して、スキルの練習をする。場面を工夫して楽しく練習できると、実際に使ってみようという意欲につながる。
実行	チャレンジ 1週間程度の期間、意識してスキルを使いながら生活する。
振り返り	評価 子どもがスキルを使っている場面を見たら、意欲を伸ばすため教師は逃さず、すかさず積極的にほめる。
	振り返り 実際に使って生活した心情を振り返り、皆で良さを共有する。

④ SSTの例 「ありがとう」…感謝の気持ちを伝えるかかわりのスキル

説明

先週の休み時間のことでした。先生が音楽室に行く時、リコーダーを落としたことに気付かないで、「なくした」と困っていました。すると、ある男子がリコーダーを拾って持って来てくれました。うれしかったので笑顔で「ありがとう」とお礼を言うと、男子も嬉しそうに笑ってくれました。そして、困っている人がいたら、今度は先生がお手伝いをしてあげようと思いました。

「ありがとう」という言葉には、不思議な魔法が2つあります。1つ目は、「うれしかったという気持ちが相手に伝わって、2人ともうれしい気持ちになれる」という魔法です。2つ目は、「今度は自分も人のお手伝いをしてあげよう」という気持ちになれる魔法です。「ありがとう」という言葉が増えると、みんながうれしくなって、親切がどんどん増えていきます。先生は、〇組がそんな学級になるといいなと思っています。みんなにも「ありがとう」をたくさん使ってほしいので、これから練習してみたいと思います。



SSTの取り組み

米子市立福生西小学校

交流

◆生活を円滑にするスキルのトレーニング

「人間関係の問題を解決する方法」を知り、生活に生かすことができるように、月に2回、5時間目の前の15分間を使ってソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいます。そこでは、大きく分けて2つの領域のスキルを行っています。「配慮のスキル」（対人関係における相手への気遣い、マナー、ルールなど）と「かかわりのスキル」（感情交流の形成、集団活動に主体的にかかわる姿勢など）である。年間計画に基づいて、1回は第1月曜日に全校でそろえたテーマで、もう1回は各学級の実態に応じて行います。

◆「笑顔であいさつ」（1年生）

2人で自己紹介をし合い、握手をしながら笑顔で「よろしくお願ひします。」とあいさつをします。初めは照れくさそうにしていた子も、2人目、3人目となるうちに自分から進んであいさつができるようになります。普段の生活でも「笑顔であいさつ」を合い言葉にして、あいさつをすることの大切さ、気持ちよさを感じられるようにしています。



スキルを使って“心地よかった”と覚るこが定着につながります。教師や子ども同士で積極的に評価し合う機会をつくりましょう。

(4) 劇でよりよい人間関係づくり

国語や特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科・領域の中で「劇」を取り入れた教育活動を行うことがあります。「劇」は学級づくり、人間関係づくりに効果があるといわれています。文部科学省も子どもたちのコミュニケーション能力を育成するために、芸術家を学校に派遣し、ワークショップ型の授業を展開しています。



鳥取市立鹿野小学校6年生の練習の様子

◆学級という集団で「劇」を創り上げる過程での効果

子どもたちは話し合い、考えを出し合い、よりよいものを創ろうと協力します。劇の中で、誰もが学級の一員として役割を担い、誰もがいなくてはならない存在となり、そこに居場所ができます。協力して劇を創り上げる過程で、周りの人のがんばりやよさを見つかることができると共に、自分のよさにも気付くことができます。互いに相手のことを認めることができる集団は、安心して学習できる集団ともいえるでしょう。

◆劇を通して「演じる」ことで得られる効果

劇の中で周りの様子を感じながら演じることは、自分を認識することにつながります。登場人物になりきり、多様な人間の疑似体験することができます。表現する楽しさも感じられます。劇を通して生まれた関わりを、実際の生活の中に取り入れて継続していくことで、人間関係を広げることできます。劇を通して、世界を広げたり、他者を理解しようとしたりする姿勢が生まれるかもしれません。

鳥の劇場 役者さんの光る言葉



- 劇の役は一人一人違うけれど、めざすところは同じ
- 台詞は無くても、役者は同じ空間に存在している
- 劇の役を演じる中で、新しい関わり合いが生まれる
- 伝えたい相手をもって、その人に届けるように声を出す
- 言葉の意味を考える 背景を考える 場の雰囲気をおこさないように
- 劇は点ではできない、みんなが点と点をつなげようと意識しないとできない
- この言葉があるから、次の言葉がある 「バトンの言葉」を大切に
- 集団の一部として役を演じることで、自分のことや周りのことを意識し始める



学級にいる子どもたちも一人一人違います。違うけれど、同じ目標に向かって共に集団を作っていく過程は、劇と似ています。相手の気持ちを想像したり、言葉を届けたり受け取ったりする中で、つながり合う集団を作りましょう。

児童の感想 ～鳥の劇場の方に教えて～

鳥のげき場の人に教えてもらって、歌がとても上手になりました。歌を歌うことがすきになってきたのがうれしいです。

(4年児童)

伝えようとする相手がかわったり、思いがかわったりするだけで、大きな声にかわったのでびっくりしました。

(3年児童)



「鳥の劇場」の劇団員さんによる指導

うしろでせりふを言わないわたしも、みんなと一緒によることが、べんきょうになりました。(3年児童)

劇について 子どもたちにインタビュー

鳥取市立鹿野小学校

交流



Q 友達との関係が近づきますか

A 劇を本気になって作り始めてから、普段外で元気に走り回っている男子が、目の色を変えて衣装づくりをしたり、小道具の材料を集めてくれたりして、距離が縮まりました。

6年生は、自分たちの劇がよりよくなるように、話し合いをもちました。

Q みんなで役について話し合っ、どう変わりましたか。

A 台詞の意味や劇の中での重要性が分かるにつれて、言いたい台詞が増えました。すると、日ごろ控えめな友達が積極的に「この台詞が言いたい」と立候補するようになり、びっくりしました。

A 指導に来られた劇団の方が、台本を見て涙を流しておられました。その姿を見て、「私たちは戦争のつらさを本気で伝えなければいけないんだ」と思いました。プロみたいにはできないけれど、何事も本気になれば伝わるということ学びました。

Q 劇をして心が一つになったと感じたことはありますか。

A 台詞が終わったらすぐにそでに移動するのではなく、後ろに座って演技をするように指導を受けました。自分自身が背景の一部になっているのです。みんなで一つの場面をつくっている感じです。



鳥取市立鹿野小学校6年生の「鹿野っ子まつり」での劇の様子



短期間で見栄えのよい劇を教師が作るのではなく、子どもたちが主体的に劇を作っていくように長期的な視野を持って取り組みましょう。教師の適切なアドバイスや指導を入れながら、子どもたちが自分たちで創り上げたと感じることが大切です。

先輩のコツに学ぶ！ ～困ったときのQ & A～

Q 1 学級開きは大切と聞きましたが、どんなことをするの？

A 新年度、子どもたちは、新しい学年、学級、教師、友達に対して大きな期待をもって登校します。子どもたちが「この学級ならがんばれそうだ」という安心感をもち、「いろいろなことに挑戦して自分を伸ばしたい」という意欲がもてる出会いにしましょう。

(1) 担任の思いや願いを伝える

始業式のあと学級で



出会いの印象はその後の信頼関係に大きく影響します。笑顔ではつらつと語りかけましょう。

教師から自己紹介

始業式で姿勢よく話が聞いていたよ。
みんなに会えるのを楽しみにしていたよ。

担任の願いや思いを伝える

一人一人が主役 いじめは絶対に許さない
みんなが安心して過ごせる学級にしよう



(2) 学級開きからの一週間を大切にす

学級開きから1週間

新しいことにチャレンジしよう！という気持ちが、一番強いとき

ルールの定着

- ・ 基本的な生活習慣
あいさつ、時間を守る、話を聞く等
- ・ 朝の会や帰りの会の進め方
- ・ 当番活動の仕方 等

教師と子どもの信頼関係を築く

- ・ 子どもの動きをよく観察 (授業・休み時間等)
- ・ 子どものよさを認める

先生はいつも見てくれている



努力している姿や新しい学級のために協力しようとする姿などを承認しましょう。

Q 2 教室環境は、どのようなことに配慮したらよいの？

A 「環境が人を育てる」といわれるように、整った教室環境は子どもたちの生活の落ち着きや心の安定につながります。子どもたちが一日の大半を過ごす教室が居心地のよい場となるように、以下の点に留意して、教室環境づくりに努めましょう。

(1) 整理整頓

- ・ ごみや物が落ちていない
- ・ 掲示物が外れていない
- ・ 教室の棚や個人のロッカー等の整理整頓



「何を」「どこに」「どのように」置けばよいのか写真や文字で明確に示すことも効果的

整った教室環境で過ごすことは気持ちがいいなあ。

(2) すっきり、シンプルに

- ・ 教室前面の掲示物は必要最小限に
視覚的な刺激は集中の妨げとなる
- ・ 黒板の周りはすっきりと



(3) お互いを認め合う場に

- ・ 学級や子どもたちの成長が分かるもの
- ・ 子どもたちがアイデアを出し合う係活動
- ・ ありがとうメッセージコーナー 等



自然と会話の生まれる教室環境の工夫をしましょう。お互いが認め合える温かい雰囲気の中で、子どもたちは自信と達成感を得ることができます。

Q 3 朝の会にはどのような内容があるとよいの？

A 朝の会は、一日のスタートとなる貴重な時間です。子どもたちに一日の見通しや目標をもたせ、気持ちよく一日の生活が始められるようにしましょう。

(例)

- あいさつ …明るく、さわやかに、1日を気持ちよく始める
- 今月の歌 …みんなで元気よく歌い、学級への所属感を高める
- 健康観察 …一人一人の様子を確認しながら、しっかり名前を呼ぶ



係や委員会からの連絡 …子どもたちが主体的に活動する場を設定する

1日のめあて …子どもたちがめあてを設定し、意識しながら生活させる

先生の話 …見通しをもって行動できるよう、その日の予定を簡潔に知らせる

※朝の会がスムーズに進行できるように

1分間スピーチ



子どもの発達段階に応じては、司会が自信をもって進行できるように、進め方を用意しておくといよいでしょう。

Q 4 帰りの会ではどんなことに気をつけるとよいの？

A 帰りの会は、今日の出会いに感謝をし、明日へとつなげる大切な時間です。だらだらと叱責して長引く帰りの会をしたり、「よくなかったこと」の反省会で終わったりしないようにしたいものです。そのためにも、その日あった「よかったこと」を伝え合い、「明日も学校に来たいな」という思いがもてる時間にしましょう。

(例)

よかったこと

係りからの連絡

一日の振り返り

明日の予定

先生の話

「よかったこと」は、隣の友達やグループで伝え合ったり、順番を決めて発表したりすることもできます。また、カードに書き、掲示することもできます。教師も同様にうれしかったことや感謝したいことなど自分の気持ちを伝えましょう。

今日のMVPは〇〇さんです。音楽の時間が終わった後、最後まで残って椅子の片付けをしてくれました。



子どもたちとハイタッチをしながら一人一人に声をかけたり、じゃんけんをしてスキンシップを図ったりするなど、自分なりの工夫をして笑顔で下校できるようにしましょう。

どんなにいそがしくても「さようなら」のあいさつは、安心した雰囲気の中、笑顔で行いましょう。

Q 5 子どもの心に届くほめ方は？

A 「ほめて伸ばす」という言葉があるように、ほめることは子どものやる気を伸ばす効果的な方法です。しかし、ただやみくもにほめればよいというものでもありません。本人や周りの子どもが望ましい行動に向かうように導くことが大切です。

(1) 具体的な行動に注目する

日常生活の場面で子どもの望ましい行動は無数にあります。そうした機会を逃さず、具体的な行動に注目して伝えるようにします。行動に注目することで、子どもが人の役に立っていることに喜びを見出せるようにしたいものです。



「ごみを拾ってくれてありがとう」「手伝ってくれて助かったよ」

(2) 努力や過程に注目する

結果だけをほめていると、点数や順位だけで人を評価してしまうようになる可能性があります。

「テストで〇点取った」
「マラソン大会で〇位になった」

結果の背景にある努力や過程を伝えることで、努力することに価値を見出す子どもに育てましょう。

「授業中、しっかり聴いていたからね」
「放課後も自主的に練習していたから、やれると思っていたよ」

(3) 本気で喜ぶ

心のない言葉を子どもはすぐに見抜きます。どんなに小さなことであっても、そのわずかな成長を見逃さず、本気で喜びましょう。自分の成長を本気で喜んでくれる人に子どもは信頼を寄せます。喜ぶことは、最高のほめ言葉です。

Q 6 子どもの効果的なしかり方は？

A 子どもたちがよりよい成長をしていくうえでしかることも必要です。子どもの可能性を信じるからこそ、しかることもできるのです。ただし、子どもをしかるということは、子どもの言い分を聞かず、感情的に怒ることではありません。以下の点に留意します。

(1) しかる理由を伝える

なぜしかられているのか理解していなければ、どんなに厳しくしかっても子どもの心には届きません。それどころか、教師に対して反抗的になったり不信感をもったりすることになりかねません。



なぜしかられているのか、子どもに納得させましょう。しかる基準を示しておくことで、しかられた時の子どもの理解を得られやすくなります。学級全体には「命にかかわる行為」「いじめやいじめにつながる行為」などの行為を子どもがした時は、毅然と「いけない」としかることで指導に一貫性をもたせましょう。

(2) 人格を否定しない

「だから〇〇さんはだめなんだ」

子どもの人格を否定する言葉です。こうした人格を否定するしかり方は子どもの自己肯定感を下げ、教師への不信感を抱かせることにつながります。



子どもたちの成長を促すためにしかり、子どもたちが「自分のことを思っただけでしかってくれているのだ」と受け止められるようにしましょう。しかった後は、さりげない言葉かけをするなどのフォローも丁寧にするようにしましょう。

Q7 子どもたちが進んで当番活動をするには？

A 当番活動とは、みんなで分担して取り組む日々の活動であり、そうじ当番や給食当番、日直などがあります。これらは学級生活を円滑に営むうえでなくてはならない活動です。子どもたちが進んで当番活動に取り組むために以下の点に留意します。

(1) 役割がすぐに分かる当番表を作成する

- ・全員が交代して公平に仕事を分担
- ・誰がいつ何をすればよいのかわかりやすく明示
- ・教室の棚や個人のロッカー等の整理整頓



誰もがいろいろな仕事を経験できるようにしましょう。また、その日の自分の仕事がしっかりと自覚できるようにしましょう。

(2) やり方や手順、分担を細かく示し、丁寧に指導する

(例) そうじの仕方

- ・ぞうきんやほうきの分担はどうするのか
- ・どこからどのようにそうじするのか
- ・早く終わった人は何をすればいいのか

「やりなさい！」だけでは活動することはできません。



何をどうやってよいか理解させることで、子どもたちが当番活動を自分たちで進められるようになります。繰り返しながら習慣化を図ることで、子どもたちが友達と協力する喜び、みんなの役に立つ喜びを味わえるようにしましょう。

Q8 「個別の教育支援計画」に基づいて「個別の指導計画」を作成している子どもを引き継いだら？

A (1)～(4)の流れで各時期に準備をすすめましょう。子どもと保護者は先生の理解と支援を必要とし、頼りにしています。安心した学校生活が送れるように、今までの支援をしっかりと引き継ぎましょう。

(1) 年度当初、引き継いだ「個別の指導計画」を熟読して、次の3つを確認

- ①診断名
- ②障がいに伴う生活・学習の困難さ
- ③具体的な支援・配慮とその成果



「子どもの困難さについてしっかり理解してくださった」と保護者が、感じると、担任への信頼感につながり、協力関係が築きやすくなります。

(2) 4月から5月初めにかけて本年度の個別の指導計画の案を作成

- ・子どもの様子を観察し・実施把握
- ・年間を通した「長期目標」と「短期目標」を設定



子どもの様子をよく知っている前年度の担任に聞くのも有効です。

(3) 5月中旬に保護者と懇談を持ち、個別の指導計画案の内容を確認

- ・保護者の意見や要望を取り入れて完成させる
- ・学校で配慮すること、家庭で実施してもらうことの役割分担をしておく

← 今後の協力体制を築く

(4) 学期末の懇談で、支援について成果と課題を保護者と振り返る

- ・次の学期に向けて支援の目標や内容を見直し、個別の指導計画を修正

Q 9 担任に反抗的な子どもがいたら？

A 反抗・挑戦的な態度は「認めて欲しい」「優しく接して欲しい」という欲求の裏返しであることが多いです。表面的な態度だけで判断せず、行動の背景について情報を集めましょう。実態に応じて対応すれば、子どもの心は開いてきます。

行動の背景を探る ⇒ 背景に応じて対応

背景 主な養育者、家族構成、家での生活の様子について情報を集める
例) 乱暴な言葉や行動で育てられている場合は、学校で暴力・暴言が出やすくなる傾向にある。



対応 担任への反抗は、家庭の養育が反映されていることがよくあります。その子の養育者とは反対の対応（厳しい→優しい、冷たい→温かい）を心がけましょう。

背景 発達障がい（LDやADHDなど）の視点で情報を集める
例) 学習不振、人との関わりが苦手など特性に基づく困難がある場合、自分が大切に思えなくなり他者に対しても厳しく対応することがある。



対応 特別支援教育主任に相談し、LD等専門員など外部の専門家に助言をもらうなどして支援方法を探り、特性に応じた支援を行います。小さなことでもできたことを認め、意欲が持てるように配慮しましょう。その際「どうしてできないの」「頑張りなさい」など、本人の努力に責任を帰する声掛けは、さらに自尊感情を低くします。

Q 10 授業中に発表する子どもが少ないときは？

A 子どもが発表しやすくなるための環境整備や活動の手順を工夫しましょう。

(1) 発問の工夫をする

発問が抽象的で意図が伝わらない時には発表が少なくなります。



子どもがイメージしやすい発問をつくります。特に、身近な問題に置き換えると考えてみようという意欲がわきやすくなります。実物などの小道具も有効です。



(2) 教師が聴く雰囲気をつくる

正しい答えや模範的な意見を求めたり、発表の内容よりも声の大きさや姿勢、返事などを指摘しすぎたりすると発表しにくい雰囲気になります。



指摘は後回しにして、顔を見て、子どもの声に耳を向けます。うなずくなどリアクションは大きめにしていることを視覚的に伝えます。声が小さい時は「いい発表なのに聞こえなくて残念。大きな声で聴きたいな」など、子どもの意欲を認めた後、望ましい姿を伝えます。

(3) 個人で思考する

発問の後すぐ発表を求めると、考えがまとまりにくいので発表が出にくくなります。



一人で思考する時間をしっかり取ります。思考を言葉にするために、キーワードだけでもノートに書くと思考がとまとまりやすくなります。

(4) 発表への抵抗感を下げる

大勢の前で一人で立って発表することが恥ずかしい児童生徒への配慮が必要です。



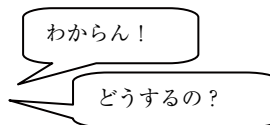
1回声に出したことは、全体の場で発表する抵抗感が少なくなります。隣同士で互いの意見を述べ合うと負担が減り話しやすくなります。

Q 1 1 授業中に私語が多く騒がしい雰囲気的时候は？

A このような雰囲気的时候、指導の仕方を少し工夫すると大きく改善されることがあります。

(1) 説明・指示を明確にする

指示を修正したり追加したりすると内容が伝わりにくく、児童生徒が迷うため私語が多くなります。1つの活動が終了していないのに次の指示を出すと、私語が多くなります。



あらかじめ指示の内容をメモしておき、短く指示を出します。思いつきで指示を出すことを避けると、迷いによる私語を減らすことができます。

(2) 活動の見通しを明確に示す

児童生徒が学習や活動の見通しがもちにくいと、何をしたいかわからず、私語が多くなります。



授業の流れをパターン化したり、カードや小黒板等の視覚支援を取り入れたりすると、学習のねらいや見通しを明確にすることができます。

(3) 子どもと教師の心の距離を近づける

進度を急ぐあまり子どもを認めることが少ない、一方的な指示が多い等、子どもとの心の交流が少なくなると騒がしくなります。



子どもと一緒に笑う、子どものつぶやきに耳を傾ける等して双方向の交流を持ちましょう。心の距離が縮まると、指示が伝わりやすくなります。

Q 1 2 学校に行き渋る子どもがいたら？

A 周囲があせりすぎて子どもの自責感や恐怖心を深めないことが大切です。保護者の不安、あせりを少しでも解消し、気持ちを落ち着けて子どもに接していくようにしたいものです。子どもが決めたことを受け入れながら、寄り添っていく姿勢が子どもの生きる力につながります。



保護者との連携において配慮したいこと

- ・まず聴く
- ・保護者の立場や気持ちになる
- ・原因探しはやめる
- ・親子は別々に面接する
- ・家族・教師それぞれの役割を考える
- ・担任が抱えこまない

児童生徒に対する支援の例

- ・家庭訪問などで子どもとの関係づくりをする
- ・本人の登校についての気持ちを考える
状況を見て登校を促したり、促すのをやめたりする
- ・気持ちをゆったりとさせる
家で自由にさせる 家で親に甘えさせる
好きなことに熱中させる
- ・自分を見つめさせる
今の自分を振り返らせるとともに、これからの自分の在り方を考えさせる

初期対応例

欠席 1 日	<p>【連絡あり】</p> <p>◇欠席の理由と熱があるかどうか等、子どもの状況を把握します。</p> <p>◇次の日に安心して登校できるよう、電話等で次の日の日程や持ち物等の連絡を行います。気になる児童生徒には家庭訪問も大切です。</p> <p>◇病状を把握した上で、必要な場合は受診をすすめます。</p> <p>【連絡なし】</p> <p>◇担任外の教職員と連携し、朝のうちに連絡を取り、様子を確認します。</p>
欠席 2 日	<p>◇体調以外の原因があることも考えて、保護者から少し詳しく様子を聞きます。</p> <p>◇欠席の理由があいまいな場合や欠席理由が変化している場合は、「お見舞い」という形で家庭訪問を行います。</p>
欠席 3 日	<p>◇理由がはっきりしていても、「お見舞い」という形で家庭訪問を行い、「心配しているよ」「待っているよ」という気持ちを伝えます。</p> <p>◇欠席が続いているので、安心して学校に来ることができるよう配慮します。</p>

国や鳥取県教育委員会作成の関連資料等

特別支援教育	「通常の学級における特別支援教育～小学校・中学校編～」(鳥取県教育委員会)
	(前半) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/560145/zennhann.pdf
	(後半) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/560145/kouhann.pdf
	「平成27年度鳥取県の特別支援教育について リーフレット」(鳥取県教育委員会) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/431134/H27tokubetusien.pdf
教育相談	H27 教育相談案内リーフレット「教育相談 道しるべ」(鳥取県教育委員会) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/954558/27mitisirube5.pdf
	初任者教員向け生徒指導資料(国立教育政策研究所) http://www.nier.go.jp/shido/shoninsha/index.html
生徒指導	「鳥取県いじめ対策指針 改訂版」(鳥取県教育委員会) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/762564/1_cover_contents_.pdf
	「いじめのサイン発見シート」(文部科学省) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/962545/sign.pdf
	「あした、また学校で3」(鳥取県教育委員会) http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/967705/ashitamatagakkoude3.pdf
	人権教育のてびき(学校教育編)(鳥取県教育委員会) http://www.pref.tottori.lg.jp/item/339145.htm#moduleid197100
	東部教育局 http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/
中部教育局 http://www.pref.tottori.lg.jp/chubukyoiku/	
西部教育局 http://www.pref.tottori.lg.jp/seibukyoiku/	
小中学校課 http://www.pref.tottori.jp/30029.htm	

学級づくり・人間関係づくり

ハンドブック

編集者 鳥取県教育委員会事務局

平成28年3月